

I 実践

1 研究主題

望ましい集団生活を通して、豊かな心を持つ児童の育成
一人一人を大切にして差別や偏見をなくす体験活動を通して

(1) 主題設定の理由

本校は、児童数28名の小規模校で、日立市の北部に位置し、自然に恵まれた地域である。すぐ近くに久慈川につながる里川が流れ、中学年が中心となってサケを飼育し、全校児童で放流している。休み時間や放課後には学年を越えて一緒に遊ぶ姿が見られる。明るく素直だが、幼稚園から同じクラスである児童が多く、互いをよく知り合っている反面、人間関係が固定しがちでトラブルもある。また、小中合同の行事などの交流も盛んである。

そこで、教育活動全体を通して、人権教育の理念についての理解を促し、豊かな人間性を育成したいと考え、本主題を設定した。

2 実践内容

(1) 人権集会（仲間づくり）

ア ねらい

○「誕生日仲間づくり」ゲームを通して、だれとでも仲良くすることができる。

イ 内容

- 1 はじめの言葉（集い委員）
- 2 歌「手のひらを太陽に」
- 3 人権チェックカード（配布；集い委員）
- 4 ゲーム「誕生日仲間づくり」
 - ①一言も言わないで誕生日ごとに集まる。
 - ②集まる場所も自分たちで決める。
 - ③そろったらすわる。
 - ④1月～12月までの誕生日の確認
 - ⑤「誕生日仲間づくり」をしての感想を書く。

5 感想発表

低学年、中学年、高学年

6 校長先生の話

7 おわりの言葉（集い委員）

- ・ 集い委員の児童が中心となって会を進めることができた。自分たちで仲良くなろう、協力し合おうという主体的な態度がみられた。手振り、身振りなどアイコンタクトを取りながら集まる簡単なゲームだったので、全校で楽しみながら、仲良く活動することができた。

(2) 映画会「5等になりたい」

ア ねらい

○思いやりや、親切について考える。

イ 内容

- ①映画鑑賞
- ②感想発表

《児童の感想》

- いじめられても学校に行くところがすごく強い気持ちだなあと思いました。
- りつ子が自分の力で歩けたのがすごいと思いました。
- 女の子が小さい時、歩けなかったけれど大きくなってから歩けるようになってよかったです。
- 映画でも友だちを大切にしたり、からかったりしない、ということがわかりました。友だちをきずついたりしないことがとても大切だとわかりました。
- 友だちを大事にすること、がんばることがわかりました。一生けんめいやるといろいろできるんだなと思いました。

(3) 縦割り班活動

ア 清掃活動

2～6年生の縦割り班を編成し、毎日の清掃活動を行っている。人数が少ないため、清掃分担箇所は決して少なくないが、高学年は低学年の面倒を見ながら、一生懸命取り組んでいる。それぞれが励まし合いながら共に活動している。

イ みんなでランチ（年間3回実施）

健康委員会が中心となって縦割り班の仲間、先生方と一緒に給食を食べている。普段の給食とは、ちょっと違い楽しいひとときとなっている。会話も弾み給食をもおいしく食べられている。

ウ ロボット教室

本年度も昨年に引き続きSPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）関連の授業を2～6年生を縦割りで6班に分けて行った。福島大学人間発達文化学類学教授森本明先生や、大学院生、大学生を交えて行った。「ロボット教室」では普段の授業とは違い、学年を越えてみんなで協力して考える授業を展開でき、それぞれの考え方の違いやよさを知ることができた。

(4) 帰りの会での賞賛

帰りの会では、各学年の実態に応じて友達のよかったところやがんばったところを発表する時間を設定している。

3 成果

- ・異学年の交流を通して、高学年は低学年の児童に優しく教えるなどして、思いやる心を育むことができた。低学年生は、高学年生に親しみや感謝の気持ちを持つことができた。
- ・帰りの会で友達を賞賛することは、お互いのよさを見つけ合うことで友達を尊重したり、大切にしたりする気持ちが育ってきている。

II 今後の課題

- ・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など教育活動全体を通して児童一人一人に差別・偏見のない人間関係や自他の立場等について考える機会を多く設定しながら意識の高揚を図っていく必要がある。
- ・教職員の人権に対する研修の充実と家庭や地域への啓発に努めていきたい。